

## ● 事業名

# 防災士養成講座プログラム

## ● 概要

和歌山県周辺では、今世紀中に発生すると言われる南海トラフ地震、さらに中央構造線による地震などが心配されている。また温暖化の影響による風水害による河川の氾濫や土砂災害が多発している。

このような背景をもとに、和歌山大学では防災・減災に強い学生の育成を図るとともに、地域貢献の一環として、地域や職場で防災リーダーとなる人材の育成を目的に「防災士養成講座」を2017年度より開講している。防災士という資格は、認定特定非営利活動法人日本防災士機構（以下：防災士機構）が認証する資格で、2024年末には累計で30万人を超えている。

ももとは学生向けの講座として、指定した教養科目などを履修することで防災士資格取得試験の受験資格を得る形式で行なってきたが、2020年度のコロナ禍を契機に院生や教職員を対象とした集中講座に移行した。2023年度よりは大阪府との広報に関する協定をもとに、大阪府民などの一般受講生も参加できるように和歌山大学の防災士養成講座は現在の形へと発展している。

## ● プロジェクトの目的

和歌山大学の学生は、和歌山県内や大阪府から通っている学生が多くおり、防災に関する教養科目「自然災害と防災・減災」（災害科学・レジリエンス共創センターが担当）は抽選科目になり、約370人で受講している。このことから学生の防災に対する関心の高さがわかる。しかし科目を履修するだけでなく、学生が防災の関心をさらに高めて、自分の身を守り、周りの人を救助する行動が取れるようになり、さらに災害ボランティアなどにも積極的に取り組めるようになって欲しいと考えている。そのため一定の防災知識を学んだという学生の付加価値として、防災士の資格取得を推奨している。また社会の要請により一般の方を含めて防災士を養成している。

## ● プロジェクトの活動内容

防災士資格を取得するためには、防災士養成研修機関が実施する研修事業を履修し、防災士機構の行う資格取得試験に合格しなければならない。そのため和歌山大学では大学の講義科目や集中講座の内容について防災士機構に提出して、承認を受けている。

## 1) 学生用の防災士養成プログラム

和歌山大学では科目履修による単位修得による方法（Aコース）と社会人と一緒に受講する集中講座受講による方法（Bコース）の2コースの選択になった。

**Aコースの詳細**

（1）単位の修得（必修＋選択） 2023・2024年度で下記単位修得（2023年度より対面講義に戻ったため、単位修得による方法が復活可能となった。）

- ・科目（必須）後期：「自然災害と防災・減災」（抽選）
- ・科目（選択・1科目以上）

後期：第3Q「事前復興まちづくり学」、システム工学部「防災工学」・前期：「災害科学」

（2）防災士教本の指定講目レポート提出（5～9講目）

（3）対象 学部学生のみ

**Bコースの詳細**

（1）集中講座の受講（2日間）

講座日時：令和7年3月1日（土）9:15～17:10、3月2日（日）9:15～17:00

（2）防災士教本の指定講目のレポート提出（13講目）

(3) 対象 学部学生・院生など

#### 共通事項

申込期間：令和6年9月10日～10月10日16時

資格試験：令和7年3月2日（日）17:20～18:20

会 場：南海浪切ホール 4階交流ホール（大阪府岸和田市港緑町1-1）

費用：防災士教本代、資格試験受験料、防災士認証登録料

#### 2) 一般の方の詳細

(1) 会場・レポート等はBコースと同じ

(2) 募集定員：100名（多数の場合は抽選）

(3) 費用：受講料、防災士教本代、資格試験受験料、防災士認証登録料

(4) 募集締切：令和6年11月28日（木）

#### 3) 参加人数

(1) 和歌山大学生 Aコース：9名

学生・院生 Bコース 集中講義型：8名

(2) 一般参加者：103名 内大阪府 86名（応募者：263名を抽選）

(3) 防災士資格取得試験合格率：一般 約90% 学生・院生は100%であった。不合格者にはセンターがサポートを行い、再試験を受けてもらっている。（令和7年8月末現在、全員が合格済）

#### ●プロジェクトの成果

講座終了後、受講者へアンケートを行い、約43%から回答を得た。

##### ●講座の満足度

講座の満足度は高く、講師の熱意やスタッフの対応、リラックスできる進捗が好評であった。多くの参加者が講義内容をわかりやすく、学びの多い講座であったと評価。

##### ●講義内容の有用性

実践や地域の防災活動に役立つ内容と評価され、特にハザードマップを活用した実践型実践が好評であった。災害の知識が不足していると感じていた参加者からも、多角的に学べて高評価であった。

	時限	時 間	講義内容
1日目 (3月1日)	1	8:50～9:15	受付
		9:15～9:30	オリエンテーション
	2	9:30～10:30	自主防災活動と地区防災計画
		10:40～11:40	地震・津波による災害
			昼食（各自）
	3	12:30～13:30	地震・津波への備え
2日目 (3月2日)	4	13:40～14:40	気象災害・風水害
	5	14:50～15:50	風水害・土砂災害等への備え
	6	16:00～17:00	災害情報の活用と発信
		17:00～17:10	事務連絡
	1	8:50～9:15	受付
		9:15～9:30	オリエンテーション
		9:30～11:40	防災士が行う各種訓練（講義と演習）被害想定・ハザードマップと避難、DIGを含む実践型演習
			昼食（各自）
	2	12:30～13:30	耐震診断と補強
	3	13:40～14:40	災害ボランティア活動
	4	14:50～15:50	行政の災害対策と危機管理
	5	16:00～17:00	防災士に期待される活動
		17:20～18:20	防災士資格取得試験

集中講座での講義内容



DIGを利用した演習をグループで発表

事業に関するお問い合わせ

災害科学・レジリエンス共創センター

E-mail : bousai@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/>

